夕刊
四月八日發行
定價 金五拾錢
廣告料 普通欄 金六拾錢 特別欄 金九拾錢
磐城新聞社
福島縣磐城郡平町大字平字西五十六番地
電話平一一
郵便振替口座仙台一六〇
（日曜祭日翌日休刊）

天妃山に遊びて

鈴木帥人

三

義公が曾てこの地に遊んだときの詩に

一年兩度有佳名
月覆潮濤碎玉聲
洗出氷輪蒼海水
中秋明珮慕秋明

また長久保赤水の詩に

青螺浮海上
華表彩雲横
月夜廟堂裏
潮音和琴聲

その他この地に關する詩歌も數多く、何れもこの天妃山の自然を謠つたものでこの地が古くより如何に多くの人々によつてその風景を愛でられしかを窺ひ知ることが出來る

然してこの山上の堂宇に夜一大燈明が點せられ漁船はこれを唯一の目標としたが當時の天妃山の夜の景はまた格別であつた

天妃山燎火　安松　重明

孤山突出臨東洋
祠畔高懸燎火光
神靈爲護波濤上
遙使漁人夜認方

平山　貞

靈山枕海翠爲堆
疑是神鼇載得來
恰似自龍宮捧火
漁人暗夜認光回

川崎　益謙

天妃祠上寂無喧
海色朦朧夕景昏
燎火光揚爛波面

四

宿の後より石段を上つて山上の社に詣でた、古はこゝに藥師如來が安置されてあつたが元祿三年に義公がその堂を松林寺に移し、こゝに新たに祠堂を建て、僧貽した偉業の一片鱗に接し心越が支那の西湖永福寺よりの奉掲し來つた海上の守護神天妃尊を祠つたのである

磐新歌壇

小山田滋選

青山　貞　三

○たまに來し都大路の人むれに耐えがたなくも吾れは歩めり（上京）

○百貨店のショーウインドのマネキンのもの珍らしき春の一とき

○ようやくに終列車にと身をゆだね廣告塔に思ふことなし

受驗　えいさぶらう

○財産がなくとも官立へはいれると母を笑つたが淋しい心

○弟を祝つていた赤はんに母の心の身にしみる朝

潮聲

第五十二集

雜詠（松堂選）

腰のして鍬に親しむ彼岸哉　素秋

畑打や裔然自力更生に

改良に辛苦をこらす接木かな

活花に水つきたせる日永かな　芳月

畑打の鍬音ひびく日和かな

長閑さの塀に羽はたく鷄の聲

豆撒やガラス障子に音たてて　城月

工事場にまた燃えさかる焚火かな

春の日の障子ぬくもり暮れにけり

青い灯

八幡秋月　三〇

『オカシナ人ね』

あや子の眸の底には輕侮に似た色が浮んだ

『オカシク見へるだろう、あやちやんの目にはオカシクみへるだらう、しかし僕にしてみれば決して狂つてもゐなければ變でもないのに、是れでもまだ正氣の積りなんだ』としばらく言葉を切つてゐたがやがて言葉の調子を更へて『僕は正氣なんだよ、正氣で言ふんだよね、あやちやん、僕は今夜君とワザ〳〵お別れに來たんだ』

異樣な色に輝く耕一の眸は眞すぐにあや子に注がれた、耕一の胸中はあや子の反問を豫期してた、しかーあや子は何とも言はない。仕方なく耕一は尙語をつゞけて『お別の盃をもつて君への祝盃に替へ樣と想つて來たのだ、ネあやちやん、僕ば君と別れるよ、もう斷然來ないよ』

耕一はカップにビールを滿して、あや子の前においた

『まさか、嫌ら嫌な男の盃だつて袂別の盃であり、君への祝盃なんだから受けてくれるだらうねェ』

あや子は冷め度い眸を心持伏せたまゝ答へなかつた

『ネ、一口で、いゝんだから……。』

『……』

『たつた一口でいゝんだよ……』

『……』

けれどあや子は尙も默つきて答へなかつた

『もう、永久に會へない！いや會はない同志なんだよ、同じ土地に住んでも決して二度と會はない積りの僕なんだよ、あやちやん飲みかけて呉れよ』

『……』

『あやちやん！あやちやんは僕が斯んなに頼んでも飲んで呉れないのかい？僕が斯んなに苦しんでるに可哀想だと想はないのかい？行きかゞりの人だつて斯んなに苦しんでたら同情の念はつた。

『むゝ、こりや、娘と逸平とがその方を……アノ其の方を稻荷の境内に誘き寄せて手籠にいたしたとか、そのまいが、俺とお蝶と兩人を詮議いたすには確と受け」時氣打までも』

『はい、此の通り、お嬢さまから手づからの極印を戴せず服罪させなければならぬが、何か其の場に見たと申す見知人等はあるか、如何ちや』

幾んと究して了つたが出來得べくんば二人を救けたい卑法ながら救け得させて甚麽にか無難に納めたい、と祈るのも親たり師たるの情力めて一方の生路をひらかうと幾かにその口實を求めた。

『はい、此の通り、お嬢さまから手づからの極印を戴せず服罪させなければならぬが、何か其の場に見たと申す見知人等はあるか、如何ちや』

幾んと究して了つたが出來得べくんば二人を救けたい卑法ながら救け得させて甚麽にか無難に納めたい、と祈るのも親たり師たるの情力めて一方の生路をひらかうと幾かにその口實を求めた。

『こりや、蝶、かくまで覺悟をいたすからには、定めし言ふに言はれぬ無念も意きましてございます』

『やア』

白玉の額に殘る疵痕は花仔細も糺さず一旦の怒に任せて音打つたとあつては周作の過失ともなり、又其方とても黄泉の障りぢや、さ、最う一度あらためて聞く、娘光、門人逸平の兩人、家名を傷けたとは何事ぢやッ』

神妙な死裝束を見ては流石に刄はあてられなかつた

『シテ又た、小廝武平がその樣なことはない、逸平に欺かれたのぢやと、其方へ語り聞かせたと』

『はい』

周作は盛みかけて訊くうちに、胸の底を攪亂する苦悶の息を幾度か其の手紙の上に吐きかけた。

『今頃になつてのそのお尋ねは些と遲蒔ではございませんか』

お蝶は銀色の眼をぢろりと脫上げて

『さ、是を御覽遊ばせ』

と帶の間から取出した手紙を颯と披いて突つけた

『大方こんなことになるだらうと先を潛つて死んだ雛の用意に書いて置いた此のいとすれば曲は此方にあること、手討にいたすなどゝ手紙、一通お目を透しなさは以つての外ぢや、短慮の再發することなく注射や他藥で治らぬ諸賢は最後の藥として迷はず……名藥別府淋藥の御服用に依り幸福を得られん事を希望致します。

別府淋藥
淋藥界の最高權威
無効返金（二日間服効なき時は殘藥引替に全部返金す）
世界の名湯別府温泉で名高い。岩里家の家傳秘藥は男女血ウミ、コシケ、淋病滴瀝に奇蹟的効果あり、どんな頑固な淋疾でも短時日に根治が出來且つ再發することなく注射や他藥で治らぬ諸賢は最後の藥として迷はず……名藥別府淋藥の御服用に依り幸福を得られん事を希望致します。
別府皮膚藥　金三十錢　金五十錢
天下の名湯別府温泉のラヂウム含有の精に各病醫院及最高學府の處方劑集め大成せる皮膚病特効藥であります、たむし、いんきん、みつむし、なまず、しらくも等其他皮膚病に卓効あり。
九州別府市鶴乃園　岩里天然堂
平町三丁目北裏通り
代理店　渡邊いと
（特約店募集）

拈華微笑

日支事變後の感　ちや降參稅だ

◇

青訓生狩り出し　に日頃覺ゆの草

◇

鑛產稅徵收意外　鞋穿き

◇

勿來トンネル改な聲をもらして

修の希望貫通

◇

明後日の松ヶ岡　花曇り。心もと無いあすの日曜

天妃山の遊び

（前）村の漁業鎭守となし天妃神と號す、修驗行藏院を以て別當に充つ、天保二年七月源烈公弟橘媛命と稱號を改む云々』

とあり、義烈兩公が我等に船はこれを唯一の目標とした當時の天妃山の夜の景はまた格別であつた

ぬれたまつ毛は　さみしいもの

なんにも云はずに　むせびなく

白きうなじは　かなしいもの

わすれた筈の　かの人に

相似しひとの　なつかしさよ

遠いえにしの　ひとながら

くるしき胞よ　母となりても。

建つてゐる。文字は殆んど摩滅して讀むことが出來ないが、これが天明九年禪僧大典の撰文になる天妃山の由緒記で、松平頼救の書かれたものである。

社の周圍の日のさしがてらぬ木影につはぶきが生え繁つてゐた

五

温泉に浴し、史蹟をさぐり、風景を愛でゝ諸友と共に終日遊んだ私は存分な浩然の氣に浸たつて、赤く夕陽を浴びた多賀連山の景趣に恍惚としつゝ歸路に就いたが、夕暮れに見た大北川河口の景は朝とは全く異つてゐた。潮汐の干滿によつて川水の增減が甚だしく、朝の大北川は水少く河原に氷さへ張られてあつたが歸路に見る川水は滿々と水を湛へてその流れが止つてゐるかのやうであつた。

思へば天妃山の清遊は醒めた夢のやうになつかしい

（八、二、二）

母となりても

草野　一郎

あきれめますと　ただひとこと

社會の今日

△藤原家隆薨ず（嘉禎三）△長濱の戰（天正一一）△鐘紡淀川工場罷業開始（昭和五）△ドイツ國立銀行總裁ルタ博士狙撃さる（同七）

4月9日

○

競漕の果てたる波の都　鹿郎

鳴

もち草は伸び過ぎにけり　集箱出る、蜂の羽音

の日に日にしげし

戸台　俊一

講談　お蘭陀お蝶

（295）渡邊默禪作　布施長春畫

『何ど！』

見るとお蝶の肌に着いた縞袢は經帷巾がはりの白衣一枚、上に墨くろ〳〵と南無阿彌陀佛。

千葉は佶と白衣の文字に目を注いだつかにかけた手

聽てくる〳〵と卷き納め

『お蝶、もうよい、肌をさせ肌を』

『えッ、それでは、お手討は』

『仔細明瞭に相分つた、其方の申し分にいつはりがなければ曲は此方にあるとすれば曲は此方にあるとすれば曲は此方にあるとすれば

在天の英靈雄魂を偲ぶ
櫻咲く松ケ岡の忠魂祭
武後龍攘虎搏の武道試合

郡出身戦病歿者の雄魂毅魄を祀る忠魂祭は明後十日松ケ岡公園で神佛兩式により町村長會長開辭、友會長及來賓（第二師團長、縣知事、歩第二九聯隊長、聯隊區司令官、在郷將校會長、武德會支部平區會長）祭文、司會者、來賓三百餘名に上り各町村では遺族、傷兵、在郷軍人、老兵會員、武德會員、赤十字社員、愛國婦人會員男女青年團員、一般參列想されてゐる

燒香、遺族傷兵へ神酒及供物配付、在郷軍人聯合分會長閉辭

の順序で執行されるが、式後同所で催される武德會平支部主催の劍、銃劍、弓道優勝旗爭奪試合は申込既に三百餘名に上り各町村では早くから猛練習を續け何れも必勝を期して居るため當日は龍攘虎搏の大接戰を豫

者、學校職員生徒兒童の事となつた

平署管内消防幹部大會
了つて三白餘名の懇親宴

平署管内四町二十二ヶ村の消防組檢閲日割の件外二消防幹部大會は今八日午前八時から渡警察部長を始め縣議、町村議、町村長其他で懇親會を催し盛會裡に散三百餘名出席、平第三校庭會したで操練の後十時から會議室

意見あり午後三時から聚樂館

來遊記念の スタンプ 作製
後藤平驛長の創案

平驛では從來觀櫻客其他の來遊を記念すべき何物も無かつたのに鑑み希望者の需めに應じて押捺すべく今八日後藤驛長の創案で安藤公銅像、豐間の燈臺、尼子橋を入れたスタンプを作製する事に決定した

三陸義捐金
金百八十三圓五十七錢

内郷村、十六圓三十二錢—田人村、五十八圓七十五錢—山田村、二十圓—豐間村

代用教員に採用された

小選手練習
磐中のリレーに必勝を意氣込む

地方に於ける春の運動界の年中行事である磐中の運動會は來月五日開催さるるので當日の小學校リレーに參加する平第一、第三其他各校とも猛練習を開始し選手の養成に努めてゐるが昨年後同所で催される武德會平支部主催の劍、銃劍、弓道優勝旗爭奪試合は申込既に三百餘名に上り各町村では早くから猛練習を續け何れも必勝を期して居るため當日は龍攘虎搏の大接戰を豫

今宵から明日へ
沼の内辨天例祭
恒例の人出に天候氣遣はる

豐間村沼之内辨財天神社の祭典は今明兩日執行される者も之を當て込んで居るが今八日の宵祭には漁業の恒例の人出に少からず天候吉凶を判ずる青年團の競泳が危ぶまれてゐる

江筋辨財天　平町大工町の同所も同日取で例祭を執行する

鑛産税の納入
意外の不成績
需要は増大したが
前契約の安單價に祟らる

去月末が納期の郡下昨年分を發付する事となつたが之の鑛産税はインフレ景氣にの結果百圓に付一日三錢の依つて好成績を豫想されて延滯金が加算されるので一居たが賦課額二十四鑛四萬二千三百七圓二十一錢（同額を地方委讓）中昨七日迄の完納は僅か一割九分八厘弱の八鑛八千三百五十七圓廿錢で昨年より一段と成績不良なので今更乍ら狼し狽て居る之は大口需要先との契約が來六月迄となつて居る爲め契約期間内は増加の逐次に對しても依然從來の安單價により需要の増加に伴ふ影響が少ないためであり未納各鑛は目下金策に奔走中で當局では近く督促狀

勿來トンネル着工
六月末竣功豫定

平潟町へ通ずる縣境勿來隧道は愈々兩縣の工費折半で改修される事に決し昨七日午前十一時から平土木監督所で請負入札を行つた結果一萬九千四百圓で用部村土木請負業中山吉之助氏に落札したので二十日から着工六月下旬竣功する豫定であると

關係者が大學して
青訓生入所勸誘
明後十日から戸別訪問

平青訓では今八日今期最初の訓練を行つたが新入生は唯の七名で合計二十名の出席者十餘名は明九日から入所

席に過ぎなかつたので關係者十餘名は明九日から入所勸誘の戸別訪問を開始する

少年赤十字入團式
けふ第一小學校で擧行

平第一校四年生二百名の少年赤十字入團式は今八日午前十時行つたが昨年は神社清掃、外國通信、左側通行結核豫防の宣傳等をなし成績頗る良好であつた、今年も夫々豫定計劃中であると

加してゐるが絶え間無き貨上なく關係民一同之の間の改善を熱望してゐる

代用教員採用　磐城高女今春卒業生平町胡摩澤の矢吹トキさんは此程豊間校のるのを憂ひ之が寄進を計劃

大工町踏切
車馬交通五千突破

平町大工町地内鐵道踏切は鐵北方面の發展及農村の進出によつて著しく交通頻繁となり最近一日の人車交通量は明九日白銀町鐵道會議から十名位を選び欠員あり次第成績順に採用する模様である

改善の要ある

結局出人から一人
篩ひ殘しの一割に就て
あす鐵道員の口頭試問

平驛、保線、機關庫關係鐵道員採用の口頭試問体格檢査は明九日白銀町鐵道會議一次試驗で三百餘名中から厳選した約三十名でこの内昨年十一月中の暴風遭難者と見られて居る

藤田訓導出發　藤田力平第一校訓導は明九日午前九時平發白河第二小學校に榮轉するが、氏は東白河の人

五十年來空前の
變眼彌だ人佛式
故吉田明雲堂主未亡人が
赤堀氏自の尊像寄進

泉驛前明雲堂眼科院吉田芳次郎氏の未亡人幸子女史は昨春夫君の歿後よくその遺志をついで内外の經營を怠らず先づ眼藥芳明水の發明を繼承して竟にその實現を見るに至り先づ眼藥芳明水の發明を繼承して竟にその實現を見るに至る始め夫君が在世中出生地大野村大字戸田字馬場の變眼彌陀尊堂の由緒深き佛体が明治十八年何者かに盗み出された儘になつてゐるのを憂ひ之が寄進を計劃

昨七日午後二時頃小名濱町第二明神丸が同濱沖合七浬で磐中二十六回卒業後本縣の地點で底曳漁業中白骨死體を掬ひ上げ警部補派出所で檢視したが身許判明せず役場で一先づ假葬に附した昨年十一月中の暴風遭難者と見られて居る

藤田訓導榮轉　藤田力平第一校庭球界今日の大物なる當り、尚ほ職員野球の投手であつたなど地方スポーツ界に深い關係があつた爲今回の轉任を惜まれてゐる、

らならなかつたのを遺憾とし夫君歿後巨匠赤堀信平氏の手板を舊平署跡火見櫓に掲出する外各要所に小立看板を掲げて趣旨の徹底を計る事

小名濱沖合出漁中
白骨を拾ひ上ぐ
昨冬の大時化遭難者か

投檜
投書歓迎

詩南社三十輯がうんうんと吼え立てるサイレンの様な素晴らしい魅力で私の眼に滲み腦髄に焚き籠められ食ひつくし讀みつくしたのに未だ足らない終刊號の文字が餘りにも淋しかつたり望を懷かせながらも印象が深い歌に『軍事郵便』の池上君が小學時代の同窓山雀集の野本君が中學時代の顔なじみ——の人たちの活躍が愉快だ

詩南車解体を惜む

◇詩南車終刊號をかくも脈が詩南車終刊號をかくも脈が華かに飾つてくれた事に先輩に華かに飾つてくれた事に何かしら感謝したい氣持が起る

◇評は其の道の人が發表される、何せ女流作家の顔振れが珍らしい。旅情が迫り塗られた感情が最後に失文字が餘りにも淋しかつた

◇緊張した、同人の作が望を懷かせながらも印象が深い歌に『軍事郵便』の池上君が小學時代の同窓山雀集の野本君が中學時代の顔なじみ——の人たちの活躍が愉快だ

◇小名濱の牧泉氏の民謡を見ないのが惜しかつた兄の人　衰運にして物事遲滯し心焦立ち失敗ある日▲九紫の人　機先を制して志望成るべし榮達の日出度日

メートル宣傳
十一日行事決定

十一日のメートル法宣傳打合會は今八日午前十時から平町役場で開いた結果當日はチラシ五千枚を小學兒童から各家庭に配布しポスター百枚を町内床屋、湯屋、映畫館、驛其他集合場所に貼り出し三尺五間の大立看

驛手轉落して轢死
昨日小川驛構内の椿事

小川郷驛手小林光善（三七）は昨七日午後七時頃構内で貨物入換作業中誤つて轉落右大腿部を轢斷即死した

勞銀調
平町役町調査去月末現在各職勞銀左の如し

銪職八〇錢　木挽、大工、左官一、〇〇　瓦葺職、家根職一、二〇　指物、建具職、經師職七〇　畳刺、車製造、桶職八〇　煉瓦積一、八〇　石工、鑄物職一、四五　鍛治職一、三〇　綿打職一、一〇　活版植字職九〇（賄ナシ）菓子製造、馬具職、染物職、塗師、和服仕立職四五　靴職六〇　洋服仕立職七〇　杜氏月給三〇、〇〇　醤油同二五、〇〇　同下男七、〇〇　下女五、〇〇（賄付）

岩が落ちて
母子共壓死
九面隧道の椿事

今八日午後二時半頃三十四五歳位の女が三つ位の子を背負ひ勿來町九面トンネル通行中天井より落下した岩石の下敷となり母子諸共即死した、身許調べ中

仔犬よ何處？　平町城山四笠原千江子愛犬（牝生後六ヶ月、ポインターアー種毛色濃褐、四肢及腹は茶斑尾

立花夫人長逝
小名濱町會議員立花雄七氏夫人ふさ子さんは豫て病氣中であつたが療養叶はず昨七日長逝十日午後二時から同町地福院で告別式を執行する五　靴職六〇　洋服仕立職七〇　杜氏月給三〇、〇〇　醤油同二五、〇〇　同下男七、〇〇　下女五、〇〇（賄付）

隔離　内郷村綴山二五歳上政光（二九）は昨七日腸チブスと決定隔離された

うら若い女性が
敢然職業戰線へ
研美院主　高橋輝子さん

昭和三年の春三月、第十六回卒業生として櫻ケ岡を巣立つた平町會議員高橋藤松氏令嬢輝子さんが、輝かしい希望に燕ちた明日を夢想する卒業直後に於て、教養ある若い女性の理想とは可なり人を惹の距離がある筈の『髮拔くべからざる信念の下に結ひさん』を聯想する東京世の褒貶を氣にも止めず

其所を卒業した嬢は更に研引き上げ『研美院』と銘打つ美日本髮技術學原理教授所に進んで腕を磨き昭和四年の十一月には自信ある粒選りの腕利きを網羅した全國名流聯合美容競技大會に代表選手として出場し見事全國的の大試練を突破して優勝旗を獲得した程の技術を備ふるに至り翌年一月より今日迄三越金澤支店美容部主任として北陸美容界の王座を占めて居たが今回兩親及知己の切なる希望もあり先方の懇請を拒げて平町に踏み出した、この若き女性の前途こそ春の如く朗かで雄々しくも女流職ある（富長は高橋研美院主）

結ひさん
見習生募集
十四才より十六才迄

高橋時計店　精幸堂號

（委細面談）平町才槌小路（キクチ自動車店向）

松村醫院
院長　松村鐵郎　平町南町電一〇七

△出生　久保町一八富岡英正三女テル子

△婚姻　奥之内二三佐久間大五郎（元）十マ郷山都村廣吉屋敷二七九二野川トク（三三）

▲死亡　番匠町四山崎正子（三四）

在りて根氣强く働くが安全相談事は因▲七赤の人　陰晴内に蔭ちて何となく物事の埒開かぬ日▲八白の人　衰運にして物事遲滯し心焦立ち失敗ある日▲九紫の人　機先を制して志望成るべし榮達の日出度日

平町慶弔録

踏判定廻備
東京市本郷區湯島四丁目五番地
高島易斷總本部　神鏡館

△一白の人　あさひの昇る如き盛運を呈す企業建築何れも吉▲二黑の人　心落付かず萬事手遲の起らんとする因縁日▲三碧の人　思案にのみ暮れて物事の運ばざる注意の日▲四綠の人　運氣平順にして立直りの兆あり著實が第一▲五黄の人　表面は悦びある如く見へて内實調はざる日▲六白の人　内に

日曜日	月	日	干支
三	十	五	乙巳
四	月	除	大安
九	月	九	宿

荆妻フサ儀病氣中の處爽石効無く昨七日午後三時永眠致し候に付乍略儀以紙上謹告候也
追て葬儀は十日午後二時當町地福院に於て告別式執行可致候
四月八日
小名濱町　立花雄七
親戚一同

平町田町（電話一二番）
ホール御座敷の設備あります。皆様の御立寄を！
うなぎ御用命は
うなぎ奴

公園（忠魂碑型）に賣店開設
毎度御ひいき有難ふ御座ります。

吉田眼科病院
平町紺屋町

當選御禮
江名町會議員　賀澤一造
太清左衛門
遠藤俊一郎

只今迄三越金澤支店美容部主任として務めて居りましたが今度左記の場所に開業致しました。
當院獨特の斬新なる技術と優秀なる器具並に衛生設備の完全は皆々様の御期待に副ふことと存じます。
宜しく御引立を賜り度く御願ひ申上ます。
アメリカ式美顔術　シャンプー　マニキュアー
和洋結髮　毛染　御婚禮化粧着附
平町田町五番地
研美院
洋髮主任　高橋輝子　門根花